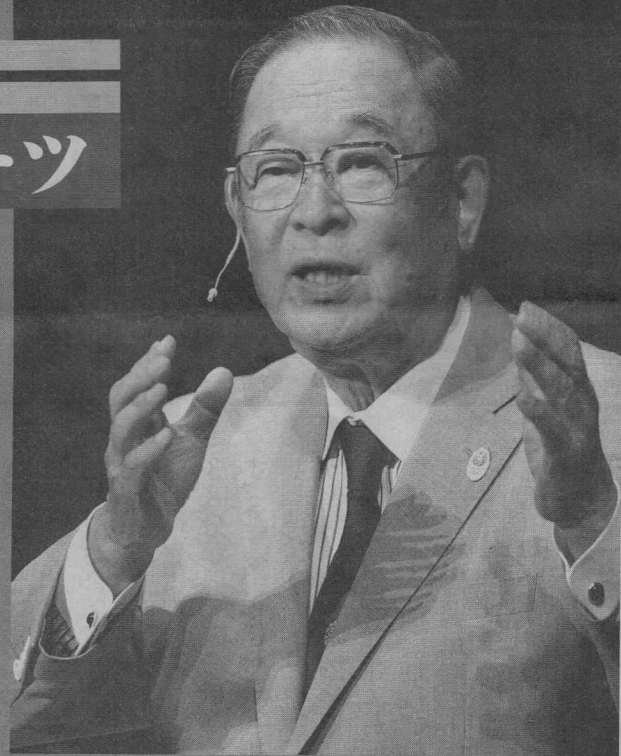


特別講演

我が人生とスポーツ



公益財団法人日本体育協会 会長
トヨタ自動車株式会社 名誉会長

張 富士夫 氏

スポーツで培う精神が、
社会で役に立つ

我々の若い頃は、健全なる精神は健全なる身体に宿ると習い、一生懸命を鍛えました。確かにスポーツをしてきた人は厳しい練習に耐え、技を磨き、勝負を経て、いろいろなことが身についているのではないかと思えます。

や思いやり、先生、先輩への感謝、礼儀を学んでいますから、お付き合いの基本ができています。努力の大切さは、私自身が初めて運動を一生懸命にやってみて自信をつけたことで実感しました。努力すれば上手くなるということを知りうちに経験することは、とても大事です。近頃の若い人は打たれ弱いと言いますが、打たれ強く、少々のごときはひるまない精神も、社会に出たときに大いに役に立つのではないかと思っています。

剣道と出会い、人生が
変わる

終戦直後、日本に戻ってきた私は、小学校を5回変わりました。なかなか溶け込めず、なんとか認めてもらいたいという運動を頑張ろうとしたのですが、走ったり跳んだりすることがすごく苦手。運動会でも一番足が遅かったのです。中学校では野球を一生懸命やりましたが、半分はベンチでした。

駒場高校に入学し、「剣道をしよう」と友達に誘われ、警察署の稽古を見物に行きました。教えて下さいと言う前に、防具を着けられ、竹刀を渡され、「やってみる」と言われまわりました。数分間だったと思いますが、気持ちの上では300発ほど殴られたように感じました。

手は真っ赤に腫れ、頭はズキズキ痛かったです。このまま引き下がれないと、翌日に正式に入門しに行きました。先生はもう来ないと

思ったのか驚きつつも、迎え入れてくれ、前日とは違い、一から教えてくださいました。

高校の体育の先生から剣道はぶつかり稽古が一番大切だと聞かされ、打ってはぶつかりを繰り返して、練習を続けていくうちに、ほかのスポーツと違って上手くなりませんでした。1年半で初段をいただき、一生懸命練習すれば成果が出るということを生まれて初めて体験したので。

剣道での成功体験を機に、次は勉強に必死に取り組み、2回目の受験で大学へ合格。自分でもよく受かったなと思えますが、入ったら天下というわけで、すぐ剣道部に行きました。3段を持っていたので1年から正選手



になり、4年間、稽古と試合ばかり。主将として仲間たちの統率も経験しました。

3年生の終わりにトヨタ自動車に試合に行き、勝つことができました。すると、終わってから「トヨタに入れ」という話になり、それがきっかけで私は入社したのです。あまり大きな声では言えませんが、自動車が好きで入ったわけではありません。

警察署の稽古を見物にいったこと、一生懸命やると成果が出るのだと受験勉強も頑張れたこと、トヨタに試合に行ったこと。今の私は、剣道なしではあり得ません。

入社後も厳しくひとりの人間として鍛えられ、自分なりに成果が出たということが本当にありがたかった。まさにスポーツをやっていたおかげで、いろいろなことをやり遂げることができました。

社会に出る前に、スポーツをやった方がいいと思います。特に新人は、世の中について知らないことばかりです。失敗を恐れずに飛び込んでいくという

精神はスポーツと共通しますし、いつの時代も企業は、この様な人材を求めています。振り返ると一生懸命、稽古に打ち込んだことがバックボーンになっています。スポーツは、人間修養の道具として非常に大事。自分の身を助けてくれると思います。